

水の大切さ学ぶ

サントリー
水育活動 親子ら2100人が来場

《水の日》

サントリーの水育活動が、科学技術館（東京・竹橋）で「水の日」（8月1日）に行われた。国土交通省、東京都、水の週間実行委員会の共催によるウォーター・フェア（7月31日～8月2日）の一環として開催された。来場者数は、約2100人の上

った。

サントリー水育「出張授業」と「森と水の学校」は、年間を通じて白州（山梨県）など日本各地で実施されている。雨水をろ過する森の役割、日常生活における水の大切さなどを紹介している。

サントリー水育「出張授業」と「森と水の学校」は、年間を通じて白州（山梨県）など日本各地で実施されている。雨水をろ過する森の役割、日常生活における水の大切さなどを紹介している。

二、三十年前は、オゾンホールが非常に話題になっていました。ところが、最近ではほとんど取り上げられていません。それは、世界中がその問題に熱心に取り組んだ結果、改善が見られたからです。同様に地球温暖化も皆が協力することで、解決の方向へと糸口を見つけていきたい。今回のプログラムが、親子での会話や企業や地域での取り組みへのきっかけになってくれれば、嬉しい」と村上助教は話した。



「水の日」プログラムの開かれた会場で、「CO₂って、知っている人」の問いに元気よく答える子どもたち